

【資料】 スノーリゾートシティSAPPORO推進戦略の検討経過

1.スノーリゾートシティSAPPORO推進戦略検討委員会の概要

スノーリゾートシティ SAPPORO 推進戦略策定に向けて、札幌市が目指すスノーリゾートの方向性や誘客ターゲット、今後実施すべき具体的な取組、推進体制等について、学識経験者、観光関連事業者等から意見を頂く目的から、スノーリゾートシティ SAPPORO 推進戦略検討委員会(以下「検討委員会」という。)を設置しました。なお、検討委員会は、令和2年度中に、合計4回実施しました。

検討委員会の概要

回	概要
第1回	日時:令和2年10月8日(木)9:30～ 場所:ORE 札幌ビル7階 会議室 B 議題: 1.委員長選出 2.検討委員会の概要説明 3.推進戦略の概要、現状分析について 4.札幌が目指すスノーリゾートの将来像について
第2回	日時:令和2年11月5日(木)9:30～ 場所:ORE 札幌ビル7階 会議室 B 議題: 1.前回の振り返り 2.目指す将来像について 3.将来ビジョンの実現に向けた課題整理について 4.誘客ターゲットと誘客戦略について
第3回	日時:令和2年12月 ※書面開催 議題: 1.前回の振り返り 2.目指す将来像について 3.将来ビジョンの実現に向けた取組について
第4回	日時:令和3年3月19日(金)10:00～ 場所:TKP ガーデンシティ PREMIUM 札幌大通 カンファレンスルーム 6B 議題: 1.推進戦略素案の確認 2.今後の取組に向けた意見交換

2. 検討委員会の委員

検討委員会の委員は、任期を令和2年(2020年)9月11日から令和3年(2021年)3月31日と定め、学識経験者及び観光関連事業者等の中から、市長が委嘱しました。

検討委員会の委員

氏名	所属・役職等
遠藤 正 (委員長)	札幌国際大学スポーツ人間学部スポーツビジネス学科 教授
土田 史郎 (副委員長)	一般社団法人札幌観光協会 事務局長
伊藤 嘉範	北海道エアポート株式会社 観光開発部長
井上 浩勝	札幌ばんけい株式会社 代表取締役社長
金川 浩幸	一般社団法人定山溪観光協会 副会長
岸波 光弘	北洋銀行 地域産業支援部 管理役
クリス・ピッカリング	JC Niseko 合同会社 代表取締役社長
笹本 潤一	日本旅行業協会北海道支部 支部長
高木 邦男	札幌市内ホテル連絡協議会 宿泊部会長
水口 猛	北海道運輸局観光部 次長
吉川 直克	札幌商工会議所 国際・観光部長

(敬称略、委員長・副委員長以外は五十音順。肩書は検討委員会開催当時のもの)

3.市民意見募集(パブリックコメント)実施結果

(1)実施概要

①意見募集期間

令和3年(2021年)7月26日(月)～令和3年(2021年)8月24日(火)

②意見提出方法

郵送、持参、ファックス、電子メール

③公表資料

- ・ スノーリゾートシティ SAPPORO 推進戦略(案)
- ・ スノーリゾートシティ SAPPORO 推進戦略(案)の概要

④資料の配布場所

- ・ 札幌市役所 15 階 観光・MICE 推進課、2 階 市政刊行物コーナー
- ・ 各区役所 総務企画課広聴係
- ・ 札幌市ホームページ

(2)ご意見の内訳

①意見提出者数

14 人(10 歳代 2 人、20 歳代 5 人、40 歳代 2 人、50 歳代 2 人、60 歳代 2 人、不明 1 人)

②意見件数

25 件

③提出媒体別意見提出者数

電子メール 13 人、持参 1 人

④項目別意見数

ア 第 1 章 スノーリゾートシティ SAPPORO 推進戦略の策定に当たって	2 件
イ 第 3 章 スノーリゾート推進に向けた札幌の現状	1 件
ウ 第 4 章 スノーリゾート推進の方向性	1 件
エ 第 5 章 具体的な取組	18 件
オ 第 6 章 推進体制と進行管理	3 件

(3)ご意見に基づく当初案からの変更点

お寄せいただきましたご意見をもとに、当初案から以下のとおり修正しました。

修正箇所	修正前	修正後
<p>p21 ② 「雪体験コンテンツ・ウインタースポーツ施設」</p> <p>市内の主な雪体験コンテンツ・ウインタースポーツ施設</p>	<p>【施設名称】 (新規)</p> <p>【コンテンツ内容】 (新規)</p>	<p>【施設名称】 <u>リュージュ競技場(フッズスノーエリア)</u></p> <p>【コンテンツ内容】 <u>札幌オリンピックの練習コースとして設置されたリュージュ競技場。誰でも参加可能な体験会も実施</u></p>
<p>p54 2-① 「ウインタースポーツ体験コンテンツの充実」</p> <p>具体的な取組</p>	<p>【項目】 ウインタースポーツ施設の活用</p> <p>【内容】 ジャンプ競技場、スケート場、カーリング場などのウインタースポーツ施設を活用し、競技大会の開催や体験教室の充実など、観光客がウインタースポーツを体験できる機会の充実</p>	<p>【項目】 ウインタースポーツ施設の活用</p> <p>【内容】 ジャンプ競技場、<u>リュージュコース</u>、スケート場、カーリング場などのウインタースポーツ施設を活用し、競技大会の開催や体験教室の充実など、観光客がウインタースポーツを体験できる機会の充実</p>
<p>p57 3-① 「市内6スキー場のトータルブランディングの推進」</p> <p>具体的な取組</p>	<p>【項目】 スキー場同士の連携による<u>サービス提供体制の強化</u></p> <p>【内容】 修学旅行やスキー授業、団体客の受入等にあたり、各スキー場単独で対応できない場合の相互協力の推進など、<u>サービス提供体制の強化</u></p>	<p>【項目】 スキー場同士の連携による<u>サービスレベルの向上</u></p> <p>【内容】 修学旅行やスキー授業、団体客の受入等にあたり、各スキー場単独で対応できない場合の相互協力の推進、<u>案内サイン等の統一化など、6スキー場の連携によるサービスレベルの向上を目指す。</u></p>

(4)ご意見の概要と札幌市の考え方

お寄せいただきましたご意見の概要と本市の考え方は、以下のとおりです。

※いただいたご意見は、一部要約、分割して掲載しています。

第1章 スノーリゾートシティ SAPPORO 推進戦略の策定に当たって (2件)		
No.	意見の概要	札幌市の考え方
2 推進戦略の目的		
1	スキー場は、市民利用が増えなければ回復しないため、このような戦略には意味がない。コロナ対応に注力して欲しい。	新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた札幌観光の回復に向けて、本戦略の取組が必要と考えております。 また、「第1章 2 推進戦略の目的」に記載のとおり、市民のウィンタースポーツ振興に寄与することも本戦略の目的のひとつと考えています。
2	スノーリゾートとして継続的に発展していくためには、若者世代にウィンタースポーツの魅力を知らせてもらうことが重要であることから、学生のスキー場料金を低く設定すべきと考えます。	「第1章 2 推進戦略の目的」に記載のとおり、市民のウィンタースポーツ振興に寄与することも本戦略の目的のひとつであり、ご意見を今後の検討の参考とさせていただきます。

第3章 スノーリゾート推進に向けた札幌の現状 (1件)		
No.	意見の概要	札幌市の考え方
2(1) 市内スキー場の基礎情報		
3	旧「真駒内スキー場」が閉鎖した経緯について記載されていない。	本戦略は、今後の取組等についての指針を定めることを目的としていることから、ここでは、現在運営されている6つのスキー場の情報を記載しており、すでに閉鎖されている真駒内スキー場の情報は記載しておりません。

第4章 スノーリゾート推進の方向性 (1件)

No.	意見の概要	札幌市の考え方
2(2) 将来ビジョン		
4	ブランディングコンセプトの「Powder in the City」は、世界に向けて発信するキャッチコピーとしては弱いのではないかと考える。	「Powder in the City」は、本戦略の検討委員会において、外国人も含めた有識者のご意見を踏まえ、札幌が目指すビジョンを端的に表現したコンセプトとして設定したものです。世界に向けた発信にあたっては、このコンセプトに基づき、発信力のあるキャッチコピーの検討も含めて、様々な工夫をしながら効果的な発信に取り組んでいきます。

第5章 具体的な取組 (18件)

No.	意見の概要	札幌市の考え方
2(1) 基本方針1 観光客の多様なニーズに対応できるスキー場へのレベルアップ		
5	テイネハイランドのナイター化を希望。札幌市街の夜景を見ながらスキーができるという特別な体験を創出できると考える。	本戦略においても、街並みと海を一望できる眺望を、サップロテイネの強みと位置付けており、「重点取組1-①スキーヤーの満足度を高める施設整備やサービス提供」、「重点取組1-②観光コンテンツとしてのスキー場の魅力創出」の取組の中で、その強みを活かしていくことが重要であると考えています。
6	手稲山山頂は石狩湾や市街地が見渡せる観光スポットとして、かつてはロープウェイも運行しており、スキーをしない人にも魅力的なスポットにできるポテンシャルが備わっていると考える。	
7	スキー場施設の老朽化対応などは、中長期的な計画で取り組むものであり、年度をまたいだ補助金等の支援を検討する必要がある。	「重点取組1-①スキーヤーの満足度を高める施設整備やサービス提供」において、老朽化した施設等の更新について記載しており、支援の在り方についても検討していきます。
8	スキーやスノーボードは雪初体験の方々にはハードルが高いスポーツであることから、初めての方でも楽しめるスノースポーツのバリエーションを増やす施策を、スキー場事業者とともに創出することが必要	「重点取組1-②観光コンテンツとしてのスキー場の魅力創出」に記載の通り、観光客がスキー・スノーボード以外の目的でも訪れたいくなるスキー場を目指し、スキー場ならではの雪を活かしたコンテンツの充実を図ります。

9	<p>藻岩山スキー場で、学校のスキー学習と観光客で大変込み合い、ぶつかることが何度かあった。市民がいつも通り安全にスキーが楽しめるよう、スキー学習が終わった時期に観光客を誘致して欲しい。</p>	<p>「1-⑤持続可能なスキー場運営」に記載のとおり、市民利用の確保も重要な課題であると考えており、市民利用にも配慮しながら、観光客の誘致について検討していきます。</p>
<p>2(2) 基本方針 2 雪の街札幌ならではの観光コンテンツの充実</p>		
10	<p>他のスノーリゾートと「差別化」を図るためには、スキー+αをもっと考える必要がある。フッズスノーエリアにあるリージュコースについて、改修して観光客向けの体験会を実施するなど、活用を検討すべき。</p>	<p>【本文修正】</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、「第2章(2)②雪体験コンテンツ・ウインタースポーツ施設」及び「重点取組2-①ウインタースポーツ体験コンテンツの充実」の記載内容にリージュコースについて追記しています。</p>
11	<p>オリンピック招致を目指す以上、多くのウインタースポーツが体験できるよう、札幌ならではのコンテンツの充実が必要。フッズスノーエリアのリージュコースを観光やレジャーにも使えるようにアピールしてはどうか。</p>	<p>「重点取組2-①ウインタースポーツ体験コンテンツの充実」に記載のとおり、ウインタースポーツの拠点都市札幌ならではの観光コンテンツの充実を図り、大会の観戦等の「見る体験」も含めて、観光客がウインタースポーツを体験できる機会の充実を図っていきます。</p>
12	<p>もっと「見る体験」を重視すべき。スキージャンプやモーグル、ハーフパイプの大会などをもっと観光客にも見てもらえるようにできないか。競技者側もたくさんの観客に見てもらえることで励みになる。また、雪まつり期間中に設置している大通のスノーパークを冬季間常設にする、競技者のトレーニングの様子を観光客にも見てもらえるようにするなど、普段からウインタースポーツを応援できるような街づくり、観光ビジョンが持てると思ふ。</p>	<p>「重点取組2-①ウインタースポーツ体験コンテンツの充実」に記載のとおり、ウインタースポーツの魅力発信するコンテンツの充実を図っていきます。</p>
13	<p>世界初の「屋内ジャンプ競技場」の実現といったインパクトのある取組により、世界に対する広告効果や、オリンピック招致に向けた人材育成、シビックプライドの底上げに寄与することが必要。</p>	<p>「重点取組2-①ウインタースポーツ体験コンテンツの充実」に記載のとおり、ウインタースポーツの魅力発信するコンテンツの充実を図っていきます。</p>

14	都心部クロスカントリー大会の開催は、都心部の交通への影響や巨額の税金の負担を考えると開催すべきではない。	目指す将来ビジョンの実現に向けては、都心部でアスリートの走りを観戦できるとともに、気軽にウィンタースポーツも体験できる環境を整えることが重要であると考えています。ご指摘のとおり、交通への影響や税金の負担も含め費用等にも配慮しながら、検討を進めてまいります。
15	飲食店に勤務しているが、観光客から街中で雪遊びができる場所がないかと尋ねられることが多いので、スキー場だけでなく、中心部で雪遊びができる場所があると良いと思う。	「2-②都心部近郊や定山溪周辺での雪体験コンテンツの充実」に記載のとおり、都心部近郊で手軽に雪遊びやスノーアクティビティが楽しめるコンテンツの充実を図ります。
16	通年で雪を体験できる施設があると良い。(特殊な人工降雪機で冬を再現した施設など)	「2-②都心部近郊や定山溪周辺での雪体験コンテンツの充実」に記載のとおり、観光客が手軽に雪体験やスノーアクティビティが楽しめるコンテンツの充実を図ることとしており、ご意見を今後の検討の参考とさせていただきます。
2(3) 基本方針 3 ブランド力向上や周遊促進に向けた事業者連携の推進		
17	6スキー場を一つのリゾートとしてブランディングするためには、デザインコードを策定して6スキー場のコースマップや看板などを統一化することや、スキー場内のルールを統一することが重要。白馬の統一ルールが参考になると思われる。	【本文修正】 いただいたご意見を踏まえ、重点取組 3-①「市内 6 スキー場のトータルブランディングの推進」の具体的な取組の内容を修正しています。
2(4) 基本方針 4 来訪者の満足度を高めるストレスフリーなサービス・インフラの提供		
18	商業施設を利用したパークアンドライド方式(商業施設までマイカーで行って、バスに取り換えてスキー場まで行く方式)を実施することで、冬道の運転に慣れていない観光客や車の運転が苦手な市民の利便性向上が図られると考える。	「重点取組 4-①スキー場や観光施設等へのアクセス向上」に記載のとおり、スキー場シャトルバスの利便性向上を図ることとしており、ご意見を今後の検討の参考とさせていただきます。

19	観光客向けのバスだけでなく、札幌駅を含むいくつかの駅から出るシャトルバスを増やし、市民(特に学生)に使いやすいようにしてほしい。	「重点取組 4-①スキー場や観光施設等へのアクセス向上」に記載のとおり、スキー場シャトルバスの利便性向上を図ることとしており、ご意見を今後の検討の参考とさせていただきます。
20	インバウンド対応には、外国語を話せるスタッフの確保が重要であり、インバウンドの満足度を高めることで、再訪や、口コミによる他のインバウンドの来札が期待できる。	「4-④観光客受入環境整備」に記載のとおり、インバウンドがストレスを感じることなく快適に施設の利用や情報収集が可能となるよう、受入環境の整備を進めることとしており、多言語対応についても重要な課題であると考えています。
21	ハイグレードホテルの誘致や宿泊施設の富裕層向け改修は必要ない。	札幌市が目指すスノーリゾートの将来ビジョンとして、多様なニーズを持った幅広い層の観光客を顧客像として想定しており、富裕層のニーズに対応する宿泊施設の整備を、具体的な取組として位置付けているものです。

2(5) 基本方針 5 スノーリゾートとしてのブランド化を目指したマーケティングの強化

22	中心部の飲食店等で、雪遊びができる場所等をまとめたマップやガイドが配布されていると、従業員側としてもありがたい。	「5-③旅ナカにおける情報発信強化」に記載のとおり、旅ナカにおける情報発信を強化することとしており、ご意見を今後の検討の参考とさせていただきます。
----	--	---

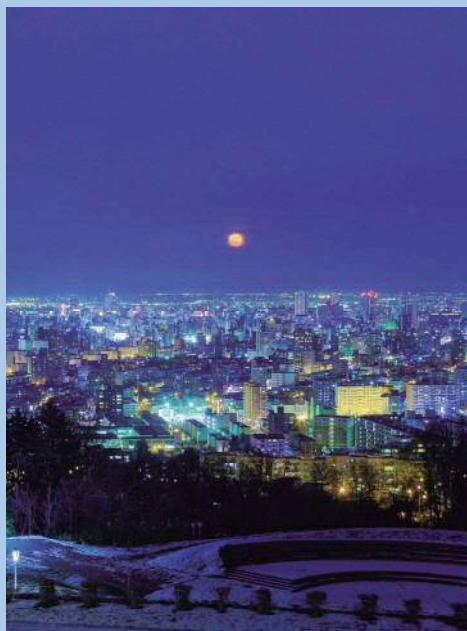
第 6 章 推進体制と進行管理 (3 件)

No.	意見の概要	札幌市の考え方
1(2) 目指す推進体制		
23	インバウンド対応などに必要な要員は、市と大学が連携し、大学生に協力してもらう仕組みを作ってはどうか。	戦略を推進するにあたっては、関連事業者や関係団体との連携を強化することが重要と考えており、ご意見を踏まえ、大学との連携についても検討していきます。

24	<p>倶知安町のように宿泊税を導入してはどうか</p>	<p>スノーリゾートの推進に当たっては、財源の在り方についても課題となることから、ご意見を今後の参考とさせていただきます。</p>
25	<p>2030年の冬季札幌オリンピック招致に向けて、招致に関わる関係団体、部署と連携を図りながらこの戦略を推進することが必要と考える。</p>	<p>スノーリゾートとしてブランド化を推進することは、ウインタースポーツの活性化に繋がり、冬季オリンピック・パラリンピック招致の機運醸成や大会開催後のその先の未来において持続的な都市の魅力の発信にも寄与することから、ご意見を踏まえ、関係団体等との連携についても検討していきます。</p>

Snow Resort City Sapporo

Promotion Strategy
2021~2030



SAPP
RO



さっぽろ市
00-00-00-0000
00-0-000